

[月刊] キリスト教書評誌

本のひろば

出会い・本・人

書との—著者との—思想との—出会い

市川康則

エッセイ

キリスト教出版、キリスト教書店への提言

春名康範

本・批評と紹介

芦名弘道 著

グループスタディ12章

イエスのたとえ話 黒田若雄

日野原重明/小塩 節/今井奈緒子他 著

母を語る 小島誠志

一色義子 著

河井道と一色ゆりの物語 古屋安雄

山我哲雄 著

海の奇蹟 月本昭男

西原廉太 著

続・聖公会が大切にしてきたもの

吉田雅人

堀内 昭 著

聖書のかがく散歩 月本昭男

ウォルター・ラウシェンブッシュ 著、
ポール・ラウシェンブッシュ 編/山下慶親 訳

キリスト教と社会の危機 岩城 聡

川端純四郎 著

3・11後を生きるキリスト教 浅見定雄

安廷苑 著

キリシタン時代の婚姻問題 小山幸伸

池田勇人 著

あかし文章道への招待 碓井真史

大和昌平 著

追憶と名言によるキリスト教入門

吉川直美

堀江優子 編著

戦時下の女子学生たち 湊 晶子

石井千賀子、加藤麻由美 著

キリスト教カウンセリング講座ブックレット12

ミドルエイジの問題 遠藤勇司

近刊情報

書店案内



5 MAY
2013

教父の生きた姿が
よみがえる



金子晴勇訳

● 6,300円

別巻Ⅱ 書簡集(2)

アウグステイヌス著作集

現存するアウグステイヌスの書簡252通から101通を選んで2冊に収録。本巻にはカルタゴ協議会(四一年)から、ペラギウス派論争を経て、彼の死(四三〇年)までの時代の書簡と、新しく発見された書簡6通を収めた。ローマ帝政末期の混沌とした社会の中で、隣人愛に生き、奮闘するアウグステイヌスの生きた姿が甦る。

好評発売中!



N・タナー

野谷啓二訳

● 3,360円

新カトリック教会小史

迫害、改革、分裂など難問に直面しながらも、世界宗教に発展したカトリック教会。その膨大な歴史をコンパクトにまとめた、教会の歴史と伝統を理解するための必読の書。



L・S・カニンガム 青木孝子監訳

● 4,410円

カトリック入門

カトリック教会が信じるものは何か? その信仰はどう実践されてきたのか? 10億人の信徒を有する教会の歴史と現代における課題を多面的に紹介する最新の概説書。

十字架と復活への道

大宮溥

マルコ福音書講解説教下



二千年前のイエスの死と今日のわれわれはどのように結びつくのか? 時代の問題や説教者自身の体験に積極的に言及し、その今日的な意義を浮かび上がらせる。
● 1,995円

頑な心と新しい心

エレミヤ書の審判と救済の通告における人間論的視座

大串肇

● 5,040円

エレミヤ書における「心」という人間論的概念に注目し、その綿密な積義的分析を通して、エレミヤにおける審判と救済の使信の神学的連関を明らかにする。



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549

本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e shop 教文館



出会う・本・人

書との——著者との・思想との——出会う 市川康則

もう四〇年も前のことだが、キリスト者としての私の思考・姿勢を決定的に方向付けてくれた——下さった、と言うべき——書がある。大学生の初めにキリスト教信仰へと回心したが、学生時代、福音主義的な超教派の伝道団体に信仰を育まれ、実践活動を訓練された。聖書研究や聖句暗記、祈り、学内伝道やフォロワー・アップにそれなりに熱心に携わっていた。しかしそこでは、信仰は基本的に個人的、内面的、実践的な事柄と理解されていた。

他方、私は自分なりに勉強していたつもりであり（専攻科目以外も受講したこともある）、政治的、社会的なことにも関心が強く、学内外のデモに参加したこともある（当時、左翼学生は大学を封鎖し、機動隊と衝突していた）。一キリスト者として、右記の事柄は当然であると思っていたが、同時に、勉強や社会的な事柄への参加も——それも、キリスト教信仰の立場からの実践が——大事であると感じていた。しかし、こうした問題を考え、実践しうるための基準やモデルを知らなかった。

ほどなく伝道への献身を決意して神学校に入学したが、そのとき、それらの問題に対して大きく眼を開くことを可能にした書物と出会った。それが、アブラハム・カイパー（一八三七—一九二〇年）の名著『カルヴィニズム』（プリンストン神学校・ストーン

記念講義、一八九八年）であった。上田丈夫訳の文語体にはてこずったが、その教説に非常に驚かされた。世界観、宗教観、政治論、学問論、芸術論、そして将来への希望と確信——それまでに直接には聞いた（読んだ）ことのないことばかりである。

現在、日本の教会と信徒が必要とするのは、そこに謳われる——キリストの宇宙的王権の下での——壮大なスケールの展望と確固たる確信である。無論、一世紀以上も前の教説であり、カイパーの神学思想にも批判されるべき点が多々ある。さらに、日本の教会は宗教改革期、否、中世期ですらなく、まだ古代史にある（それも、コンスタンティヌスの回心前の）。本講義の個々の所説がそのまま我々に有効である訳ではない。だが、日本の教会が陥りやすい信仰と世俗の二元論でも、また、反動的な一元論でも、ましてや多元主義でもない立場で、人生と世界の統一性と多様性、共通性と相違性、全体性と個別性……を考察し、実践を企図する上で、大いに有益である。

私はこの書物との出会うを通して、その著者と——間接的に——出会う、そして、過ぎ去る個人を越えて、その人の恒常的に意義のある思想と出会うことができた。これが書との出会うであると思う。

（いちかわ・やすのり＝神戸改革派神学校校長）

リレーエッセイ

キリスト教出版、キリスト教書店への提言

——もの言えば、わが身に返る、椿かな

春名康範

「沈黙は金よ」「いらん」と言うこと仕事が増えるわよ」「黙っていけば、賢く見えるかも知れんのか」と言われて家を売ったのに、「ぜひ、一言」と言われてその気になって、また墓穴を掘ってしまった。そう言えば、隣の庭に椿が咲いていました。春の木と書くが、風が冷たい月曜日でした。早速、「あの時の発言を、文面にて」とご丁寧なご要請がまいりました。参りました。

あの時、そう、一月一日に大阪の梅田のYWCA山西記念福祉会館で開かれたキリスト教文書センターとキリスト教出版社と西日本のキリスト教書店の懇談会で、二つのことを言いました。一つは、「キリスト教書店さんもせっかく教会を回って来てくださるのですから、それぞれの教会や牧師の傾向を掴んで、お勧めの本をお持ちになつてくださるといいですね。製薬会社のセールスマン(MR)さんも小児科の病院に成人病科の薬を売り込みには行かないように」と言いました。

偉そうなことを言つてスイマセン。後で考えたら、これは他人ごとではないぞ、自分は教会に来てくれている人々、求道者

や教会員の必要としているメッセージを語っているだろうか？一人一人のニードに答えるような話をしてるだろうか。自分が話したいことを話しているような説教をしているのところが？どんな悩みや苦しみ、不安を抱えて生きておられるのかよく知りもしないで心に届くメッセージなんてできるわけがないか。もっと皆さんの課題を聴かなアカンな、と思いましたが。

もう一つは、「翻訳物の注解書は面白くない。もっと日本の現場で伝道している人の書いた注解書を出してください」と言いました。翻訳というのは、外国語を日本語にするだけではなくて、外国語で語られている文化を異なった文化の中で暮らしている訳者が異なった文化を持つている読者に著者の思想を伝えようとするのですから、オーバーコートの上から背中を掻くようなもので、痒いところに届かないもどかしさを伴うのが常であります。同じ日本語の世界に住んでいる者同士でも、本人が筆を執つて書いた文章とテーパー起こしを誰かがした文章では違います。なぜかご本人が書かれた文章からはその人の体臭や

情念が伝わって来るように感じます。文章は生きものだから、人の手が入るだけで死に体になってしまふ可能性があります。当たり前のことやのに文句を言つてスイマセン。ほんなら、日本という現場で伝道に励んでいる人が書けばいいではないかと言われそうでした。しかし、現場を持つている人はなかなか書く時間ありません。まとめる時間ありません。黙想する時間も考える時間ありません。だから注解書に手が伸びるのではありませんか。

ここまで整理してみても、わかつたことがあります。キリスト教書店さんもキリスト教出版社さんも共通した悩みをお持ちであるということです。いい本を出したい。飛ぶように売れる本を出したい。各教会や学校や牧師のところに、「この本、売れます。面白いですよ。わかりやすく、勇気が湧いてきます」というような本の紹介をしたい。したいけれど、そんな本を書く人がなかなか見つからない。先生方は、すごい賜物をお

持ちでもお忙しくて本にしてまとめる時間がない。かくして、キリスト教書店もキリスト教出版社も教会も学校も牧師も、みんな孤軍奮闘しているのかもしれない。

そこで、三つの提案をします。①各教会のホームページに会員の文章や牧師の説教や論文を載せる。②出版社はそれを開いていつて、これと思う物を集めて編集し、社会問題、信仰入門、聖書解釈、説教、何でもありで、一五〇〇円程度の冊子にまとめる。③教会は教会学校成人科を設立して、一〜二カ月で一冊ずつ読み進むような読書会形式の勉強会を開く。その会の反応を『本のひろば』に載せて、『本のひろば』を教会に来ている人に配り全国に読書ブームをまき起こす。この三本の矢で、輸入物ではないキリスト教がこの国の中で芽生えるかもしれない。ほらほら、また「ほら」を吹いて、スイマセン。

(はるな・やすのり)日本基督教団天満教会牧師



新刊 死生学年報 2013

生と死とその後

東洋英和女学院大学
死生学研究編
●A5判並製 定価2625円

ニクラウス・マヌエルの現実と
死後を見つめる眼

鈴木桂子

児童文学における
死後生のファンタジー

大澤千恵子

江戸の怪談にみる死生観

佐藤弘夫

姥皮の娘とタニシ息子の物語

古川のり子

死生学の誕生と死生観の探求

島菌 進

スピリチュアル・ケアとしての
ターミナル・ケア

鶴岡賀雄

子どもの生きる力を支える

前川美行

シンポジウム「震災と子ども」
発題

朝岡 勝 / 木崎馨雄

脳死・臓器移植論議における
「日本人」と「欧米人」の死生観

渡辺和子

他、2篇

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

新鮮な驚きをもってイエスの御心に出会う
 声名弘道著

グループスタディ12章 イエスのたとえ話



黒田若雄

『信徒の友』に連載された声名弘道氏の「イエスのたとえ話」がまとめられて、「グループスタディ12章」の一冊として出版された。当時の連載を大きな期待を持って読んだ一人として、今回の出版を心から嬉しく思っている。

本書の企画が検討されていた時、出版を躊躇している著者に、著者が牧する近永教会の役員会が出版すべきと強く後押しをしたと聞く。また、近永教会との交わりがある者として、ここでの聖書講解が、まずは近永教会の教会員の信仰の戦いを心に置いて語られていることを強く感じさせられる。その意味で、著者と著者が牧する近永教会との共同作業によって、本書は生まれたと言えるのではないか。

本書は、イエスの語られた十二のたとえ話を取り上げている。たとえ話は、たとえである以上、イメージを持ちやすく一見分かりやすい印象を与える。しかし、そのイメージが固定化されてしまい、結果としてたとえを語られるイエスの御心も簡単に理解できているという錯覚に陥ることが、しばしばあるように思う。本書は、比較的よく知られているたとえを取り上げ、そ

のとえを丁寧に進めていくことで、改めてたとえを語られたイエスの御心に迫っていく。

一つ一つの聖書講解を読み進めていく中で、最初は著者の聖書理解の深さを感じさせられるが、しかし、一つのたとえ話の講解を読み終える時に心に残るのは、たとえを語られたイエスの御心の広さ・深さ・豊かさである。改めて神の御心、イエスの御心に出会わせていただいた思いを強く感じさせられる。そして、そこから示されるイエスの御心は、新鮮な驚きをもって読む者に迫り、新しい信仰の歩みへと向かわせていく。

例えば、「宝は畑に隠されている」の項で、こう言われている。「私たちは、決して生やさしくはない現実には悩まされながら生きています。……荒涼とした不毛の荒地が、目の前に広がっています。……しかし、イエスさまは、……神の国という宝は露出していないとおっしゃいます」(三四〜三五頁、私たちの荒涼とした現実の中に、神の支配が隠されている形ですでに届いていることが、たとえの言葉を通してはつきりと示されてくる。更に、「地表の現実には相変わらずです。……けれども、そ

の荒地を『無から有を呼び出』すことのできる神さまが一緒に歩んでくださることを信じて、改めて出て行くとき、取り返しつかない失敗の中に、かけがえない恵みを発見します。……私たちはすでに、宝が隠されている畑で生きているのです」(三七頁)、神と共に歩んでくださることを受け取り、隠されている恵みを発見していく歩みへと向かわせていく。

本書を通して、改めてイエスの御心に出会わせていただいたとの思いに導かれるのは、著者の説教者としての姿勢によると思う。勿論、本書は説教集ではないが、説教者としての姿勢がこの聖書講解にも強く表れている。私は、著者と共に説教の研鑽を積み重ねる場に身を置いている。その学びの場で、著者は、「説教者は共鳴板」との認識を示していた。説教者自身が御言葉に震わされ、その振動をそのままに示していく。そうして、御言葉という音の豊かさを届ける役割を果たすということである。この聖書講解も、まず著者自身がイエスのたとえに向き

合い、自分の前理解やイメージが壊され、そしてイエスの御心に改めて出会い直したことが示されていく。だからこそ、著者という共鳴板を通して、本書を読む者がイエスの御心に、新しく出会わせていただくことにつながっている。

そして、本書のもう一つの魅力は、著者が「あとがき」で触れているように、連載時のイラストが再録されていることである。小林郁氏によるイラストは、著書の聖書講解と相まって、御言葉の深みへと私たちを導いてくれていることを思う。

まずは、本書を手にとったとき、イエスのたとえを読んでいく手がかりとしていただきたいと強く願う。本書に導かれて、これまでよりも更に深く、たとえを語られたイエスの御心に出会っていかれるに違いないと思うからである。

(くろだ・わかお 日本基督教団高知教会牧師)
 (四六判・二二〇頁・定価二二六〇円(税込)・日本キリスト教団出版局)

たいようも つきも

フランチェスコのうた
 キャサリン・パターソン 文
 パメラ・ドルトン 絵 藤本朝日 訳
 260×260mm・32頁・1,575円



聖書学古典叢書(第2回配本)
**石器時代から
 キリスト教まで**
 唯一神教とその歴史的過程
 W.F.オールブライト
 小野寺幸也 訳 木田献一 監修
 唯一神教誕生の歴史的過程を
 実証的に分析した聖書考古学
 の古典。A5判・450頁・6,300円

女と男のドラマ
 現代における愛の源泉
 2012年上智大学神学部
 夏期神学講習会講演集
 宮本久雄/武田なほみ 編著
 森本あんり、岩島忠彦らによる
 11の論考とシンポジウムの
 記録。四六判・336頁・2,940円

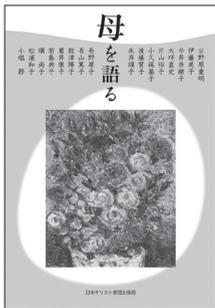
**ドイツ教会闘争の
 史的背景** 雨宮栄一
 パルメン宣言までの前史を詳述。
 ナチスへの抵抗と迎合の経緯
 を追う。四六判・360頁・2,940円

現代聖書注解(第40回配本)
哀歌
 F.W.ダブス=オルソップ
 左近 豊 訳
 悲嘆の詩を文学的に分析。神
 の沈黙、不在の信仰的意味を
 探る。A5判・274頁・5,670円

日本キリスト教団出版局
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 ☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
 E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp(価格税込)
<http://bp-uccj.jp>

時代、教会、信仰を支えてきた母たちのエッセイ集
日野原重明／小塩節／今井奈緒子ほか著

母を語る



小島誠志

どこかの教会を訪ねても会衆席の三分の二、時には四分の三が女性で占められています（長老や役員は男性）二に対して女性一の割合ですが……。日本のプロテスタント伝道百五十年、その教会を支えてきた見えざる大きな力も女性ではなかったか、この『母を語る』を読むとき改めてその思いにとらえられます。ここに紹介されている「母」は大抵戦前、戦中、戦後の激動の時代を信仰をもって生き抜いた方々です。

激動の時代の中で「母」たちは夫を支え、夫である牧師を支え、子どもたちを抱きかかえるようにして生きたのです。女性のもつしなやかな粘り強さ、と言えるかもしれません。が、なにより信仰がその粘り強さを支えていると思わされます。その母の愛に支えられ抱き締められ育てられた一人一人の思いがこれらの文章には込められています。

最後の晩餐の夜、キリストは弟子たちの足を洗い、言われました。「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」。愛というものは、それが深いもの

であればあるほど異様に見えるのであります。理解できません。しかし、しだいに分かってくる。後で」身にしみて分かってくる。

年を重ねながら、だんだん分かってくる。自分に子どもが与えられて、分かってくる。あの頃の母の年齢になって、思い当たるようになります。そう、十字架の恵みが、この身にしだいに重く分かつてくるように。

男性にとつて母親の愛は、樹木が光を吸い込むように無条件のもので、女性の受けとめ方は単純ではないように思えます。少し厚いレンズを通すように、同性であるために伝わり方がストリートではないと思わされる部分。しかし、同性であるために、厚いレンズを通してより強靱なつながりが生まれているようにも見えます。

「私は教会に頼まれて信徒として説教するときには、必ず『母だったらどの聖句で説教するだろうか』と考えますし、実際説教するときも母の信仰が私に伝わってきていることを感じるの

です」（日野原重明）

「……しかし、私は母について、語らないわけにはいかないのです。なぜなら、私が母について語るといことは、私が神様の恵みについて語るといことであるからです」（大坪直史）
「……すぐに熱が出てくる。ぐったり寝るしかない。すると母がやってきて、額か胸に手を当ててくれた。『お手当』だった。すると私はいつしかフツと眠りこんでしまう」（小塩節）
母親のもとで「男の子」であった者はいくつになっても「男の子」であり続けます。これを書いている私自身を含めて。

戦時を生きた母親たちの姿。
「母は戦争のさなかに結婚し、私を出産後すぐに夫を亡くしました。そして一人働きながら私を育ててくれたのです。……

略血する夫を取取りて八月十五日夜更くるまで敗戦を知らず（大市あい歌集から）」（伊藤美子）

「ある日、私は食前の祈りの当番で『日本が早く勝ちますよ

平出慶一自伝 平出慶一師自伝刊行会（代表 日田尚徳）

まのあれみ限りなく



発行
日本福音基督教団
成城キリスト教会
B6判・188頁
口絵14頁
定価1,050円（税込）

＊好評発売中！



アメリカ留学から帰国した平出慶一師は、1918年から、内村鑑三、中田重治、木村清松師らと、全国的に再臨運動を展開した！その後再臨待望同志会を結成し、その信仰は今日に受け継がれている。また伝道者として日本、アメリカ、カナダ各地の巡回伝道を行った。多くの働きを通して、そのメッセージは力強く、聖書の説き明かしは深く、耳を傾ける一人一人の心を揺さぶった。待望の復刊！

＊ヨベル新書016 4月上旬発行予定＊

渡辺善太著作選④ 聖書論 聖書正典論 2/1

◆収録エッセイ、論文◆
早川 敏 「宗匠様とその周辺
——ゼンダゴン・ギャラクシー——
「正典的聖書解釈と説教」
関田寛雄 「渡辺善太における現象学的態度
小林和夫 「その解說的輪廓」

＊新書判・256頁・1,890円（税込）



◆既刊◆
① 偽善者を出す処
② 聖書論—聖書正典論1—
◆続刊◆
＊新書判・八九〇円（税込）
① わかて、わからぬキリスト教
② わかて、わからぬキリスト教

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
＊自費出版の専門出版社＊

信仰はただ守られてきたものではありません。闘い取られてきたのです。そういうものとして継承されなければなりません。きびしい時代だからこそ、なおさら。

（おじま・せいし）日本基督教団久万教会牧師
（四六判・二四二頁・定価二〇〇円（税込）・日本キリスト教団出版局）

戦争を乗り越えた女性同士の絆
一色義子著

河井道と一色ゆりの物語 恵みのシスターフッド



古屋安雄

著者は、一色ゆりの一人娘であり、母が助けた恵泉女学園の河井道を個人的にも知る人で、両者の「シスターフッド」について書く最適の人物である。彼女は牧師として恵泉女学園で教えたこともあり、恵泉の理事長になったこともあり、恵泉のことなら何でも知っている人である。

「シスターフッド」（こういう語がフェミニスト神学で使われていることを初めて知った）の始まりは、一九〇四年、河井が教授で、ゆりが学生であった開校間もない津田英学塾であった。河井はプリンマー女子大学から帰国したところだった。彼女は塾で教えながら、YWCAなどのキリスト教学生運動にも力を入れるが、ゆりも卒業後、津田から頼まれて、フレンド派（クエーカー）のアールラム大学というインディアナ州の共学の大学に留学する。そこで、河井との「シスターフッド」は続くが、なんとといっても運命的な出会いをするのが、ボナ・フェラーズ（戦後にマッカーサーの副官として来日する）との出会いである。

河井は一九一六年に津田英学塾を辞任し、日本人として初めてYWCAの総幹事となる。他方、ゆりは同年、実業家でありイギリス仕込みの一色庸児と結婚する（父がどういふひとであったか不明）。

一九二九年（昭和四年）に恵泉女学園を始めるのであるが、一つは、富士見町教会で同じ長老をしていた、羽仁もと子の自由学園（一九二二年、大正一〇年創立）をどう思っておられたのか。二つ目は、相談を受けた新渡戸稲造がどう考えたか、ということである。始め反対していたのに、どうして賛成したのか。

私の言う「二十年周期」の反動期である。満州事変がはじまって、いわゆる「十五年戦争」の時代にはいつているからである。いずれにせよ、「シスターフッド」は今まで以上に、続いた。今日、恵泉があるのは、戦時中の困難な時代この二人の「シスターフッド」があったからである。

やがて、敗戦。かのボナ・フェラーズが、マッカーサーの副

官として、准将として進駐するのである。このフェラーズが、マッカーサーにとっても、最も知れたことを河井に聞くすなわち「日本のキリスト者が天皇の戦犯についてどう思うか」という質問である。このことを著者から聞いた私は、河井をはじめとして日本のキリスト者が天皇存続のために努力したと、書いたのがあった（共著『日本の神学』一九八九年）。

このことが、恵泉にとって問題になった。ジャーナリストの岡本嗣郎が『陛下をお救いなさいまし』——河井道とボナー・フェラーズ』（二〇二二年）を書いて、河井道が直接この言葉を語ったかのような印象を与えたからである。

しかし、その場に居合わせた著者自身の言葉で修正されている。一色ゆりが言っている。「陛下にもしもの事が……私……生きていない。ねえ、先生！」「それを受けて、河井道は、日本にとって大変なことだと語りました」。

これで、問題はかたづいたのではないか。直接この言葉を語

ったのは一色ゆりであるが、「シスターフッド」の関係にあった河井が同意したのである。「あとがき」によれば、著書がそれに属している「フェミニスト神学」において、最近重視されるようになった「シスターフッド」（姉妹性）、すなわち女性同士の連帯、絆であるが、河井道と一色ゆりの関係がまさに「シスターフッド」であることに気づかされたという。

（ふるや・やすお||聖学院大学大学院教授
（四六判・二六四頁・定価一八九〇円（税込）・キリスト新聞社）

キリスト新聞社の本

Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.

▶女性たちへの生きる希望!



好評発売中

河井道と一色ゆりの物語 恵みのシスターフッド 一色義子◎著

恵泉女学園の創設から第二次世界大戦中の苦難と悲しみ…河井道と一色ゆりの天国にまで結ばれた五〇年。信仰と希望をもって戦後教育の発展に大きく貢献したシスターフッドの愛を描く。

■四六判 264頁 1800円

キリスト新聞社

351-0114 埼玉県和光市本町 15-51
和光プラザ2階
TEL 048-424-2067 (価格に税込)
E-Mail support@kirishin.com
URL http://www.kirishin.com

日本の旧約聖書学が達した学的水準の証し
山我哲雄著

海の奇蹟
モーセ五書論集



月本昭男

旧約聖書学に関心を抱かれる方々のなかには、山我哲雄さんの訳をとおして世界の旧約学に触れた人も少なくないにちがいない。これまで、とくにドイツ語圏で刊行された旧約学分野の名著や話題の書の数々を山我さんは邦訳し、詳細な解説を付してこられた。それだけではない。日本を代表する旧約聖書研究者の一人として、学術誌には欧文で幾多の論文を寄せている。また、山我さんの『聖書時代史旧約篇』(岩波現代文庫)はキリスト教界をこえて広く読まれていた。本書はそのような山我さんの最初の旧約学論集である。「最初の」と聞けば、彼の精力的な学術活動を知る者には意外に感じられるかもしれない。

本書には山我さんの数ある論考の中からモーセ五書に関連する十一点が収められている。比較的最近までの研究史を手際よくまとめあげた「モーセ五書」の成立」を第一章に、モーセ五書を固定的に捉えうるのかどうかを問う「モーセ五書」の最終形態について」を最終章に配したのは、読者への配慮からである。それらを読めば、五書研究はヤハウイスト(J)、エロヒスト(E)、祭司文書(P)、申命記的文書(D)からなる

「後退版」の二つの伝承層からなる。そのうち「分水版」はより新しい伝承層に属し、神の命令とその成就を物語る「神中心」思想に隈どられる。古い伝承に遡る「後退版」にも「聖戦」という視点から改編された痕跡が残る。聖書の物語伝承にみるこうした歴史のなかに、山我さんは聖書を伝えた人々による伝承の「絶えざる現実化」と「止むことなき再解釈」を見据えようとする。

最後に、祭司文書を論じた二つの章が添えられる。古代イスラエルの祭司たちが供犠・供物に与えた神学的意味を論じ、彼らが極度に怖れた「穢れ」の観念を明らかにした第九章「祭司文書における供犠と浄、不浄の体系」、祭司文書の歴史物語を跡づけるなかで「永遠の契約」が希望の表明であることを指摘する第十章「祭司文書の歴史像」がそれである。

本書に収められたこれらの論考には、旧約学者山我さんの研究姿勢がよく示されている。山我さんは、つねに、内外の先行

四資料仮説を鵲返しすれば、こと足りる、といった状況でないことが自ずと知られよう。

第二章から第六章までは創世記に伝わる物語や伝承を取り上げた論考である。そこで山我さんは「エデンの園」の物語に王権への批判的視点を読み取り、「ノアの呪い」と「アブラハムの祝福」には民族主義的色合いを見抜いている。「ハガルとイシマエル」や「アブラハムとアビメレク」の挿話には家族物語から民族の物語にいたる伝承発展の過程が丁寧に跡づけられる。

出エジプト記をとりあげた二つの論考がこれに続く。第七章では「有りて有るもの」(出四14)の意味が問われる。第八章では表題に採られた「海の奇蹟」の伝承史が詳しく探られる。山我さんによれば、「有りて有るもの」とは、神の「存在」を啓示するというよりは、人と「ともにある」神ヤハウエがその「加護と現前」を約束する宣言である。「海の奇蹟」の物語は、左右に分かれて壁となった水の合間を民が渡るといふ「分水版」、東風によって後退した海がもとに戻ってエジプト軍を壊滅させ

研究に目配りし、それらをふまえた論述を心がけている。それゆえ、その論考はいつも情報が豊富である。そこに研究者としての誠実さが滲み出る。また、その方法論は伝承史的分析を基本に据えて古典的できさである。それゆえ、山我さんの論考には、独自性を追求するあまり奇を衒うといったところがない。日本の旧約聖書学が達した一つの水準がここにある。

(つぎもと・あきお)立教大学教授
(四六判・三六八頁・定価三九〇〇円(税込)・聖公会出版)

聖公会出版

海の奇蹟
モーセ五書論集

山我哲雄著
モーセ五書を長年わたって著者の本格的旧約研究。エデンの園からレビ記の犠牲の規定まで、長い歴史をもつ五書研究をこの一冊で一望に。四六判・368頁・定価3,990円

群馬の
キリスト者たち

山下智子編著
群馬の地で、近現代日本社会に多大な影響を与えたキリスト者たちの生涯を多くのエピソードと貴重な図版とともに紹介。巻頭にはカラー口絵、巻末には関係資料を掲載。執筆・本井康博/月本昭男/宮崎俊弥/鎌田正之/中村茂。B5判・120頁・定価1,890円

たキリスト者たちの生涯を多くのエピソードと貴重な図版とともに紹介。巻頭にはカラー口絵、巻末には関係資料を掲載。執筆・本井康博/月本昭男/宮崎俊弥/鎌田正之/中村茂。B5判・120頁・定価1,890円

聖書のかがく散歩

堀内昭著
化学者の目を通して語られる聖書の中の植物、動物、鉱物、微生物。聖書の中の場所は時と場所を越える。新鮮な切り口の楽しいエッセイ。A5判・224頁・定価1,890円

162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1
TEL03-3235-5681/FAX03-3235-5682
nssk-bookshop@company.email.ne.jp

宣教への勇気を与えてくれる書
西原廉太著

続・聖公会が大切にしてきたもの 宣教の課題と可能性



吉田雅人

本書は、前著『聖公会が大切にしてきたもの』の続編であり、その副題「宣教の課題と可能性」が示しているように、聖公会という教会がこの世界の中でどのように神と隣人とに仕えてきたのか、これからも仕えていこうとしているのかを物語る書である。

本書は二部構成をとっており、第一部は「わたしたちの『宣教』を思い描くために」というテーマで記され、二〇一二年九月に開催された「日本聖公会宣教協議会」における著者の基調講演がもとになっている。第二部は二〇〇七年から一年にかけて、キリスト新聞の「論壇」に著者が執筆したエッセイの中から、著者が厳選した「宣教」に関わる十篇が掲載されている。

さて、日本聖公会は一九七〇年以降、今回まで三度の宣教協議会を開催してきた。各々に特色があったが、著者は特に一九九五年の日本聖公会宣教協議会の成果を取り上げて、「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」や聖公会共通の宣教目標「福音伝道の十年」を簡単に紹介する。それらを振り返った上で、著者が問題提起するのは「日本」というコンテキストで宣教す

るといふのは、どういうことか」という問いであった。

この問いに対する著者の答は、教会本来の「共同体性の回復」ということであった。それは教会がこの世に在ることに於いて「宣教共同体」であり、この世の価値とは異なるものを崇めるという点で「礼拝共同体」とであると主張する。そして、そもそも聖公会の教会論の本質は「共同体性」にあると明言する。著者はこのことを、全聖公会の宣教理解という項で、「宣教の五指標」、「英国教会の Parish and People（教会区と教区民）運動」、「ウェールズ聖公会の宣教ヴィジョン」などを取り上げて、分かりやすく解説していく。

そしてこれらの「共同体性に基礎づけられた宣教理解」のもとになったものこそ、前著でも簡単に触れられていた、「牧会的配慮 (Pastoral care)」としての聖公会の「宣教理解」なのである。その理解の中核には、聖公会の「パリッシュ制度」がある。パリッシュ（教会区）とは、英国国教会が、イングランドという地域を物理的に区分けした最小単位で、〇〇市××小学校区とか〇〇郡△△村というような具体的な区域のことであ

る。そしてその区域に〇△パリッシュ教会が存在する。だから英国国教会は、必ず「Parish Church of (教会名・地域名)」と名乗っている。そしてその教会は、自らのパリッシュ内の全ての人（信徒であろうとなかろうと）に対して牧会的配慮を行い、その教会区内の政治的・経済的・社会的・霊的なあらゆる課題について責任を持つのである。もちろん日本で英国と全く同じ制度を設定することは出来ないが、このような教会が置かれている地域に対する、教会の牧会的配慮と責任という考え方とその実行は、我々にも可能な働きであると著者は訴える。そこには「〇〇派」VS「××派」という対立構造ではなく、徹底的に牧会的配慮をなす教会共同体という教会論・宣教論が生じるのである。このような教会論・宣教論を、著者はウイリアム・テンブルや岡谷聖バルナバ教会の二女性信徒の人生を通して、東日本大震災「いっしょに歩こう！プロジェクト」の働きや大口聖公会の宣教の歩みを通して物語るののである。

このような教会論・宣教論を著者は、第二部の「もう、ひとりで歩かなくても」の中で、カンタベリー大主教の説教を引用して語る。「聖歌隊の指揮者にとって最も重要な任務は、大声を出して歌う人や、音を外している人に注意を与えることではない。その任務とは声の出していない人、聴き取れないほどの小さな声の人の存在を、敏感に感じ取れることだ。そして、『あなたの声が聴こえなければ、この聖歌隊は無いほうが良いのだ』と語りかけることなのだ」と。

本書は、日本聖公会という小さな「共同体」の身の丈にあった宣教論である。これなら私たちも小さな一歩を踏み出せる、そんな勇気を与えてくれる優しい物語である。前著『聖公会が大切にしてきたもの』と共に一読をお勧めする。

(よしだ・まさと) 日本聖公会司祭、ウイリアムス神学館館長
(四六判・一二四頁・定価一八九〇円(税込)・聖公会出版)



聖公会出版

ヘンリ・ナウエン

その生涯とビジョン
M・オラフリン著
廣戸直江訳
HENRI NOUWEN
ヘンリ・ナウエンの生涯とビジョン
キリスト教霊性の著述家として多くの作品を残したナウエン。その幼年期から死にいたるまでのナウエンの生涯を写真と彼の語ったことばで綴る。本邦未公開の写真も多く掲載。A5判・212頁・定価2100円

礼拝はすべての人生を変えてゆく

～その働き、その大切さ～
ポール・ブラッドショー 編
榎原芙美子 訳

現代英国の礼拝学の碩学ブラッドショーは「教会はいつでも本来あるべき姿になってゆく途上にある」と唱える。そんなブラッドショーが若い世代に問いかけた名著の翻訳。全編カラーの美しい映像の中で、礼拝の神髄が語られる。A5変形・52頁・定価1575円

アダム—神の愛した子

H・ナウエン著/宮本 憲訳
アダム 聖書の物語
大学で神学を講じていたナウエンは魂の遍歴の末に行き着いたラッシュでアダムと出会い、アダムの中に神の存在を見る。改訂新版。四六判・176頁・定価1890円

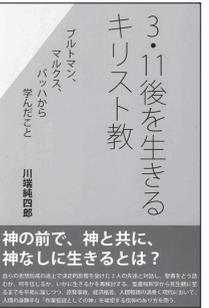
162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1
TEL03-3235-5681/FAX03-3235-5682
nssk-bookshop@company.email.ne.jp

キリスト者としての渾身の問い
川端純四郎著

3・11後を生きるキリスト教 ブルトマン、マルクス、バツハから学んだこと

この本の表題である『3・11後を生きるキリスト教』について早く知りたい人は、目次（その大見出しを「項」と呼ぶことにします）の**第一項**「3・11後の世界が私たちの現実」と**第二項**「マルクスとの出会い」（その原点は、今は昔、一九六〇年に、貧乏留学生の著者が貨物船でドイツへ向かう途上、アジア諸国の港に停泊するたび出会った、あまりにも貧しく痛ましい子どもたちの群れのことだった！）を、それから最終項（**第一〇項**）の、特に「苦しむ者との共苦から苦しめる者への怒りへ」をお読みにするのがいいと思います。

「イエスと共に生きること」が「被災者と苦しみを共にすること」だという面は、多くのキリスト者が、（重い病を持つ本書の著者も）、黙々と実行しています。しかしキリスト者は、更にその苦しむ人々を「苦しめるもの」とも闘わなければならぬはずだと著者は言います。現在の事態を曖昧に、人知を超えた神の摂理などと思っただけではいけない。「作業仮説としての神」の拒否！。被災者を苦しめる勢力は、電力業界や現政府をはじめ、具体的に存在する。それを見定めて、あのイエス



浅見定雄

と同じように憤り、闘わなければならないというのです。

本書のもう一つの特徴は、聖書解釈上の難問を易しく的確に説明してくれる点にあると思います。第三項「ブルトマンから学んだもの」で、著者はブルトマンの学恩に感謝しながらも、恩師の政治への関心の弱さや、また聖書の問題点を古代的自然観（神は天空の上に居られるとか自然科学の法則に反する奇跡とか）に限る点には同意しません。自然観だけではなく、聖書の歴史的・社会的制約（性差別や身分制等）も、同じように問題なのではないか。第四項「バルトとブルトマン」（聖書によって信仰が「起」ること、その信仰を「語る」ことを巡って）をはじめ、第六項「聖書は神の言葉か」や第八項「聖書記者の前提解（聖書記者が前もって抱いていた観念）」はみな、この問題と関連した文章です。第六項冒頭の「信徒の迷い」では、一般信徒が当惑しているに違いない聖書のいろいろな問題点を挙げます。例えば、同じイエスについて四つの福音書の記述が食い違っていたり、日本語聖書の元にもなっている「原典」の写本が、実はいろいろあつて、しかも手書きで伝わった

ものだから異同も多い等々。

しかしそれでも聖書は、今日なお、それと向き合う人の生きかたまで変えてしまうような出来事を起こします（第六項最後の「この私に語りかける神」）。聖書の内実は「分かる」のです。それは、人間が昔も今も社会的な存在であり、また死すべき存在であるという事実と深く関係します（第九項「理解可能な根拠」）。

以上のことと関連して第七項「イエスとキリスト」では、ブルトマンが生前のイエスと死後の「キリスト」とを峻別すること、著者は留保を表明します。事実は、生前のイエスの振る舞いや教えが、弟子たちや民衆の中に、後で十字架のイエスを「キリスト」と告白させるような「核心」を植えたのではないかと言うのです。「核心」とはラテン語でクルミの実を指すnuxのこと、その固い殻の中に芽がひそんでいます。著者はこのような事態を「in nuce」「核心において」とか「ひそか

に」と説明します（nuce、Gruは短母音）。

最後に、第五項の「バツハの音楽から聞こえてくるもの」は、一見、バツハに心酔する著者の「間奏曲」のようにも見えます。しかし同じ著者の『J・S・バツハ——時代を超えたカントー』（傍点は私）を知る者は、これは正に第四項と第六項以下の諸章との間に置かれるにふさわしい小論だと納得するでしょう。バツハは律儀なルター派の信者だったのに、音楽ではカルヴァン派やカトリックの人々とも感動を共有しました。また彼の音楽は、二一世紀の今もなお、私たちの心を躍らせます。偏見や先入観（誤った「前理解」）を克服した人間の間には、正しく読まれた聖書から起こると同じような人間の相互理解が成り立つことをバツハの音楽は示しているのだ——著者はそう言いたいのだと私は思いました。

（あさみ・さだお「東北学院大学名誉教授」
（四六判・九四頁・定価二二五五円（税込）・新教出版社）

キリスト新聞社の本
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.
キリスト教年鑑WEBサービス
4月中旬にご利用開始!
好評発売中!

Christian Year Book 2013
キリスト教年鑑 2013

PCで情報閲覧
+ラベル印刷機能
CD付き
CDの使用はWindows/Macに対応
※付録CDについての重要なお知らせ
本冊のCDに収録されているソフトウエアにおきまして、不具合が報告されており、皆様には多大なご迷惑をおかけしてしまい、誠に申し訳ございません。この不具合につきましては最新バージョン(アップデータ版)をご利用いただくことにより、回避できます。詳しくは弊社ホームページをご確認ください。誠に恐縮ながら最新バージョンのダウンロードをお願いたします。

キリスト教年鑑編集委員会◎編
最新のアップデートとして、あるいは歴史的な資料として幅広く活用できます。二〇一三年版よりPC上で情報を閲覧でき、ラベル印刷もできる役に立つ便利な機能を搭載したCDを付録しました。また、二〇一三年四月中旬には会員制サイト「キリスト教年鑑WEBサービス」を公開予定です。ぜひ期待!
■5冊入りCD付き 18,400円・12,600円

キリスト教年鑑 2013
WEBで教会の詳細情報を網羅!

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町 15-51
和光プラザ2階
TEL. 048-424-2067 (価格には税込)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

宣教師が直面した最大の障害
安廷苑著

キリシタン時代の婚姻問題 キリシタン研究第49輯



小山幸伸

本書は、「キリシタン時代」と呼ばれる約一世紀の間に、イエズス会を中心としたカトリック勢力が行った布教活動の歴史を研究したものである。そこでは、日本や中国で布教する上において重要な課題であった婚姻問題が取り上げられている。

カトリック教会において、婚姻は単一性と不解消性が重要視される。しかるに当時の日本や中国では、離婚・再婚はもちろん妾を持つ行為も特段珍しいことではなかった。この時代の日本布教をリードしたイエズス会は、「上からの改宗」を布教方針としていたが、日本の社会でも、とりわけ上層階級に位置する人々ほど、これらの行為を当然のことと受け止めており、最初の婚姻に立ち戻ることなど到底不可能な社会であった。したがって何らかの「特免」を想定するほか、この難問を解決して改宗事業を展開することはできなかったのである。

このような困難な改宗事業を担った宣教師たち、とりわけ巡察師であったヴァリニャーノにとっては、婚姻問題こそは、布教上の課題の第一位に位置付けられていたようである。彼の行った諮問の最初に婚姻問題が位置していることから、そのこ

とが窺える。因みに私の研究分野である「高利」の問題も取り上げられており、「殺人」・「戦争と捕虜」・「偶像崇拜および迷信」などととも「良心問題」として位置づけられていることを、本書により興味深く学んだ。これまで「高利」による商業活動を自明のことと捉えて、あくまでも日本経済史の一環として研究してきたのであるが、安氏の研究から、「高利」問題に対する視野が広がった。

日本社会における離婚や再婚あるいは妾を持つ行為は、あまりに自明のことであるため、単なる「事実」として日本史研究者にとっても見過ごしがちな側面もあったのではなからうか。

NHKの大河ドラマではないが、浅井長政の三女「江」が、三度も結婚していることを知ったとしても、そこから「良心問題」として婚姻のことを問題視することなど思いもしなかった。また、その義父である徳川家康には築山殿や朝日姫などの正室がいたほかに、お亀の方やお方の方など側室や愛妾が多数おり、側室との間に生まれた子供が徳川御三家を形成した。こんな話を聞いても、特段婚姻をどう考えていたのか、あるいは外国人

の目にどう映ったのか、という疑問は湧いてこなかった。その点では、本書により「鏡に映った日本の社会」を見せられた気がする。

この時代は、いわゆる大航海時代の余波が東アジアに及ぶ時期であり、ヨーロッパの文明が東アジアの文明と出会うことで、さまざまな文化摩擦が展開した時代でもあった。それゆえに、「婚姻」という人類の普遍的な問題が、異なる地域において摩擦要因になりうることを取り上げた本書は、実証的な歴史研究書であると同時に、比較文化論の研究書としても楽しく読めるものである。またその対象地域を日本と中国としたことで、同時代の両社会の相違点についても比較しうるのである。

離婚や再婚を肯定的に評価するつもりはないが、それらを意に介さない日本の社会は、ある意味で「おおらかな社会」であったとも言えるだろう。そのような日本の社会に対し、本書を契機に「鏡に映った日本」を意識した社会史研究が進展してい

くことであろう。また日本社会における女性の立場から、同様の問題を捉えなおす研究にも寄与することと思われる。このような問題にメスを入れられた安廷苑氏の研究は、布教史における婚姻問題という先行研究の少ない分野を切り拓いたというだけではなく、国内史プロパーたちにも刺激的な内容となつている。そのような新しい視点からの歴史研究の誕生に立ち会えたことは、誠に喜びに堪えないことである。

(こやま・ゆきのぶ) 敬愛大学経済学部教授
(A5判・二八八頁・定価四八三〇円〔税込〕・教文館)

キリスト新聞社のDVD
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.
▶ 説教を学ぶ最良の教材!
4月25日発売予定!

日本の説教者 第1巻

3枚組

DVD 収録説教者

平野克己、関谷直人 ● 編著

季刊誌「MESSAGE」(キリスト新聞社)の創刊と共に誕生し、本邦初の試みとして大変好評いただいたシリーズ「日本の説教者」がDVDセット全3巻として蘇ります!

■ B5判A15 DVD3枚組 付録冊子 5500円

「収録説教者」
Disc ① (74分) || 加藤常昭(説教塾 主筆)、
深田未生(同志社大名誉教授)
Disc ② (66分) || 榎原康夫(日基督教改革派東京総会
教会牧師 〇二二年五月退任)
雨宮康(上智大学神学部教授)
辻祐子(日本基督教団隠岐教区)
加藤博道(日本基督教団東北教区 教

「第2巻」(DVD4枚組)は
2013年夏発売!

キリスト新聞社
351-0114 埼玉興和光市本町 15-51
和光プラザ2階
TEL. 043-424-2067 (備稿は税込)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

主に用いられる体験に基づいたあかし文章を目指す！

池田勇人著

あかし文章道への招待



碓井真史

私たちは、テレパシーは使えません。私の心を、あなたの心に直接伝えることはできないのです。だから、言葉を使います。言葉は「ことのは」。内なる思いが外に出たものであり、ギリシヤ語ロゴスと同じように本質をあらわすものだ、と、本書『あかし文章道への招待』を読み、初めて知りました。

みなさんにも、様々なあかしがあることでしよう。ドラマチックな内容ではなくても、あなたの思いに共感する人がいます。あなたでなければ語れない、かけがえのないあかしがあるはずです。

もしも、そのあかしを文章にすることができたら、どんなにすてきなことでしよう。遠くの人にも伝わります。後世の人にも伝わります。けれども、いざ書こうと思うと、言葉が出ません。文章がつながりません。心の中には、こんなにもあふれる思いがあるのに。

本書は、あかし文書への道を示します。第一部ではまず、「あかしすることの意味」、「書くことの祝福」から始まり、あかし文章の心が語られます。本書はたんなるハウトゥ本ではなく

いからです。

「あせらず、きばらず、ゆつたりと」書くことへのすすめ、そして書きすぎることへの戒め。あかし文章への思いだけが先走りすると、思いは空回りしてしまおうでしょう。だから、文章にはテクニクも必要です。第一部の後半では、「簡潔・明快・感銘」な文章を書くための技術を、具体的な例をあげながら説明しています。

起承転結といった基本を踏まえた上で、文章の音楽性、絵画的性、ドラマ性へと文章論は発展していきます。しかも、抽象的説明ではなく、豊富な実例を取り上げながらの説明ですから、わかりやすく理解できることでしよう。

第二部は、まさに豊富な実例集です。内村鑑三ら歴史的な人物から、牧師でもあり著作家でもある千代崎秀雄、百歳の現役クリスチャン医師日野原重明などによる、多くの優れたあかし文章、さらにごく最近の文章例まで、25の事例が紹介されています。

満江巖の「簡潔で訴える力を持つ」名文。小畑進の「無駄な

言葉をそぎ落とした巧みな説教技術」。山北宜久は「ユーモアセンス抜群の文章家」。著者の適切な文章紹介により、第二部を読むだけで、クリスチャン文章家らの思想に触れ、文章の息づかいを感じる事ができます。

第三部では、言葉を生かすために言葉について考えます。「話す」と「語る」はどう違うのか。赤ん坊のことをなぜ「みどりご」というのか。「舟」は一般的に小型のフネを表すのに、ノアが作ったのはなぜか「箱舟」など、興味深い話が続きます。「恵み」「幸い」「父」「神」「光」「闇」「愛」など、聖書にしばしば登場する言葉を、日本語の語源から、また聖書から、解説していきます。それは単なる知識に終わらず、言葉を使う上での深い考察につながるでしょう。

そして、本書の後書きは、著者個人のあかし文章にもなっています。病との戦いの中で経験した手術への恐れ、痛みの苦悩。み言葉との出会い、星野富弘の詩から受けた励めと励まし。

池田勇人 著

※ヨベル新書12

あかし文章道への招待

※好評発売中！



文章力を極める！

刀を振り回すのがお侍というのではなく、……国の中の自分たちの使命をしっかりと持った上で、剣術の修行をし、生き方の道を極めて行くのが武士道……だとすれば、同様に上手な物書きになるのが目的でなく、もろ刃の剣である言葉を使う私自身の修練、成長というところがあつてこそ、文章道というものが成立する。言葉を磨くことは、即自分の内面を磨くことにつながる……これが私の考える「あかし文章道」(本書より)

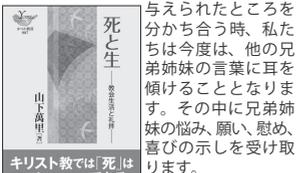
◎新書判・二五六頁・一〇五〇円(税込)

※絶賛発売中 ヨベル新書 007*

山下万里 著

死と生 教会生活と礼拝

難エヤイ山路は、確かに越えられ 宮村武夫
御言葉は、自分が置かれている状況の中に響いてきます。それを一人ひとり聴きます。御言葉は私たちに、慰めを与え、喜びを満たし、あるいは励まし、教え、戒めます。



キリスト教では「死」は「コロン」に集点である。
*新書判・272頁・1,470円(税込)

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
自費出版の専門出版社

「自分にとっての体験が宝」と語る著者のあかし実践です。あなたのあかしも、誰かが待っています。あなたの体験を通してしか福音が伝わらない人がいます。文章は難しいと感じる方もいらつしやるでしょう。けれど、筆者は祈りを込めて本書を執筆しています。「ロゴス(ことば)なるキリストが、私たち一人一人にふさわしい言葉を使うものへと成長させてくださいますように」と。

本書で引用されているように、私たちも「自分にしか書けないことを誰にでもわかる言葉で」(井上ひさし)。主に用いられるあかし文章を目指しましょう。あなたも、あかし文章道に招待されているのですから。

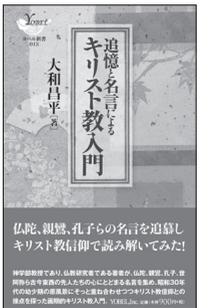
(うすい・まふみ)新潟青陵大学教授

(新書判・二五六頁・定価一〇五〇円(税込)・ヨベル)

著者の告白録であり、日本の精神風土への穏やかな眼差しに満ちたエッセイ！

大和昌平著

追憶と名言によるキリスト教入門



追憶と名言によるキリスト教入門
大和昌平著
仏陀、親鸞、孔子の名言を追憶しキリスト教信仰で読み解いてみた！

吉川直美

本書は『追憶と名言によるキリスト教入門』と名付けられている。まさしくその名の通り、大和師の個人的なノスタルジー——昭和三〇年代大阪での幼少期という縦糸に、歎異抄からドラッカーまで実に色とりどりのことばの横糸が織り込まれている。織りなす糸は一篇一篇違えども、最後には必ず創造主が、イエスがすつくと立ち現れてくる。

昭和三〇年代と言えば、今や首相が国会登壇で引き合いに出すほど世間一般に、現代の日本人が失ってしまった何ものかがあると信じられている。しかし、本書は決してそのような時代の流れに乗った懐古趣味、郷愁に浸って終わるものではない。「追憶のあの子供の頃の姿こそ、神の前に生きるために大切なのだ」という確固たるひとつのベクトルを持って書き綴られている。そう受け止めて生きているという著者の告白録でもある。

キリストは「子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、入ることはできません」と言われたが、私たちはこれを聞いて、幼子のような純粋無垢には戻れないと途方に暮れる。富める青年のように打ちひしがれて立ち去ろうと

する。ところが著者は「一つの生涯というもの……生命の稚い日に、すでに、その本質において、残すところなく、露われている」との森有正のことばを冒頭において、すでにキリストに出会っていた「あの子供の頃」へと私たちを誘う。幼少期への扉を静かに大きく開いて、身体に刻まれた記憶の中に、その情緒的な心象風景に、聖書の光を照射する。その時、あの時代の断片、あの地域の風景が、永遠に至る道への一刹那としてよみがえってくる。人はキリストに出会い、その言葉を聞いて初めて、幼少期の真の意味を悟り得るのではないだろうか。

その幼少期を紐解くために引用されている言葉は、東洋の文献に限らず、シュルレアリストから学生までと驚くほど広範に及ぶが、やはり特筆すべきは、仏教への洞察を含めた日本の精神風土に対する穏やかな眼差しではないだろうか。熱心なクリスチャンであればあるほど、他の宗教文化の一切を冷ややかに突き放そうとする傾向にあるが、その実私たちは、幼少期の柔肌に染みこんだ線香への郷愁や、仏壇の前で合わせた小さな手の記憶とどう折り合いをつけたらよいのかわからないまま、自

分の一部を置き去りにしているのかもしれない。

しかし大和少年の追憶の世界を味わううちに、異教社会の中に育った者が、やがてキリストに出会って新たな人生を歩み出すことは、木に竹をつぐような脈絡のないものであるはずがないと思われた。むしろそれは、母の胎にいる時から、存在の始まりから、「あなたは私の愛する子」との永遠からの呼びかけがあったことを思い起こし、その声を聞き直すことではないだろうか。イスラエルの民にとって旧約律法がキリストの新しい契約がもたらされるまでの揺籃であったように、異教の文化やこの世界の経験さえも、キリストに出会うまでの揺籃になり得るのではないかと思わされるのだ。

それは決して、偶像礼拝への愛着でも、どこから登っても頂上は同じというような宗教多元主義でもない。いや却って、著者の筆致からは圧倒的なキリストの卓越性、異質性が迫ってくるのだ。その対比は実に鮮やかで揺るぎがない。——平安を勝

ち得た古仏を思い巡らす中で、平安を与えるキリストに出会う。此岸から彼岸へと渡らねばならない仏教の定めを見つめて、人となつて彼岸から此岸へと来てくださったキリストを見いだす。「少年老い易く、学成り難し」と孔子が説けば、学を成すよりも子供の心で私のもとに来なさいとキリストが招く——。

著者は、人生の荒波や叡智、宗教の原理を突き抜けたその先にあり、その根源にあるキリストを常につぎつぎに見据えている。涼やかな少年の眼差しをもつて——。

筆者も大和少年に手を引かれて、自身の追憶をキリストによって読み直そうと思う。キリスト教は西欧の宗教だと思っている人にも、キリストに従おうと幼少期を切り捨てて来た人にも、幼子としてくぐるキリスト教への入り口として誇りを持って本書をお勧めしたい。

(よしかわ・なおみ)シオンの群教会教師、聖契神学校教師
(新書判・一五二頁・定価九四五円(税込)・ヨベル)

「教師の読み解く般若心経」を著した大和昌平がおくる!!

追憶と名言によるキリスト教入門

*好評発売中!



追憶と名言によるキリスト教入門
大和昌平著
仏陀、親鸞、孔子の名言を追憶しキリスト教信仰で読み解いてみた!

ケン・ボード著
アミューズング・グレース
ワンポイントエッセイ集
発行 小倉聖書パブテスト教会



「神の恵みは Amusing Grace でもあります。」
① 神の Amusing Grace は私たちが救って下さるから、楽しくさせます。② 神の Amusing Grace は私たちが義として下さるから、楽しくさせます。③ 神の Amusing Grace は私たちの罪を赦して下さるから、楽しくさせます。④ 神の Amusing Grace は私たちに素晴らしい望みを与えて下さるから、楽しくさせます。⑤ 神の Amusing Grace が私たちが楽しくさせることがいっぱいあります。神の Amazing Grace と共に、その Amusing Grace も感謝しましょう。
* B6判カラー口絵付・248頁・1,680円(税込)

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
自費出版の専門出版社

貴重な証言集
堀江優子編著

戦時下の女子学生たち 東京女子大学に学んだ60人の体験



湊 晶子

第二次世界大戦下におけるキリスト教主義教育機関の実態については、これまで『キリスト教学校教育同盟百年史』などでも取り扱われてきたが、その渦中に学んだ女子学生達からの聞き取り調査証言集として纏められ出版されたのは初めてであり、戦争の記憶が風化しつつある現代に大きな意味がある。

聞き取りの範囲を、天皇制教育の強化が学徒に本格的に影響を及ぼし始めた一九三五年に東京女子大学に入学し一九三九年に卒業した同窓生から、敗戦の年一九四五年に入学して一九四八年に卒業した同窓生に絞り、その間に在学した六〇名を対象にしたことに大きな意味がある。彼女たちの当時の生活、趣味、友情、信仰、卒業後の生き方などを綴った八八三頁に及ぶ膨大な資料は、日本の教育史、キリスト教史、女性史にとって貴重なものである。

東京女子大学は一九一〇年エディンバラ世界宣教会の決議を受け、一九一八年に新渡戸稲造を初代学長に、安井てつを学監に迎えて創立された、キリスト教を基盤としたリベラル・アーツ女子大学である。第一回卒業式のためにジュネーヴから送

られた新渡戸稲造学長の式辞「基督教の精神に基いて個性を重んじ世の所謂最小者をも神の子と見做して、知識よりも見識、学問よりも人格を尊び人材よりは人物を養成することを主としたのです」にその理念が凝縮されている。一九二四年に第二学長に就任した安井てつ先生はこの理念をサムシングというこ

とばで受け継ぎ、一九四一年に第三代学長に就任した石原謙先生は戦争非協力者とマークされつつも信仰と行動でこの理念を守り抜かれた。六〇名の証言の中に大学の礎を築かれた先生方の言葉が随所に散りばめられ、各々の人生に大きな影響を与えたことを物語っている。

聞き取りは、「戦時下の高等女学校」「東京女子大学に入学するまで」「学内の雰囲気」「各専攻部の講義」「卒業後」「東京女子大学で得たもの」「学問を奪われた恨み」「戦争責任」などの質問に答える形式で行われているが、お一人おひとりの時代分析の鋭さ、母校愛、東京女子大学の教育理念の分析などに引き込まれる思いで全文を読ませて頂いた。

御真影、教育勅語、皇統譜、千人針、慰問袋、勤勞奉仕などへの貴重なメッセージである。

この資料は日本を「滅私奉公」の時代に逆戻りさせず、真の民主主義を構築するための「公共の精神」を考えさせるためにも貴重である。それは「戦後日本人の間には民主主義が根付かなかったと、私は思っています。……民主主義の実現には、一人一人が互いの存在を尊重して、相手の言うことはきちんと聞き、自分の主張もはっきりできる、責任を持った自由人にならなければなりません」(三三五頁)との卒業生の言葉によく表されている。

堀江優子氏の献身的なご努力と教文館のご厚意によりこのような膨大な資料を後世に残すことができたことは感謝である。二度と戦争を起ささない国になるために、是非多くの方々

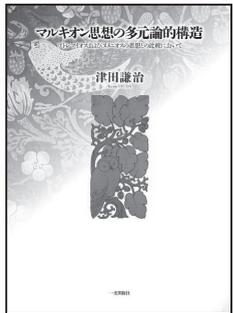
(みなど・あき) 前東京女子大学学長
B5判・九〇四頁・定価八四〇〇円(税込)・教文館



マルキオン思想の 多元論的構造

プロレマイオスおよびヌメニオスの思想との比較において

津田 謙治
Kenji Tsuda



多神論的な潮流を分析する
日本初の論考!

2世紀のローマで、マルキオンは旧約と新約の神の分離を説き、旧約は救済に関係ないとして新約だけの正典を作成。しかし、これを契機として聖書が正典化されていく。

A5判
定価 4,410 [本体4,200+税] 円
ISBN978-4-86325-055-0



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

の記述については、私自身高等女学校一年生の時に敗戦を迎えたので、共有できる史実が多かった。国策に迎合することなく犠牲(Sacrifice)と奉仕(Service)の精神に立って建学の精神を護り通して下さった安井先生、石原先生への感謝の気持ちが随所に綴られている(一九八、二〇八、二二〇、二二一、五八五、五九一、六六三頁など)。

東京女子大学がキリスト教に立脚した大学であると同時に、「個の確立」を重視するリベラル・アーツ大学であることへの言及も貴重である(一一九、二七二頁など)。「学問を奪われた恨み」については、「学問の入口を知ったことが生涯を生かしたので恨みに感じていない」といった意見も多かったが、中には「恨みより怒りを感じた」という意見もあった(一八七、一九七、二一九、三〇二、三二一頁など)。特に「戦争責任」について「二度と戦争をしない努力と憲法九条の堅持」(一八七、一九七、二一九、五一〇頁など)が強調されていることは現代

危機が起きやすいミドルエイジ世代のための叢書
石井千賀子、加藤麻由美著

キリスト教カウンセリング講座ブックレット⑫
ミドルエイジの問題
家族療法の視点から



遠藤勇司

本書ではキーワードとなっている「ミドルエイジ」を、いわゆる「中年期」（四〇代～五〇代）よりも長いスパンでとらえ、三〇代後半から六〇代初期の時期と定義している。ミドルエイジ世代は身体的・精神的・社会的な変化が多く、「課題が同時進行」し、身体的・心理的なストレスが大きくなり、「危機が起きやすい時期」であるとの特徴をあげている。危機が起きやすいミドルエイジ世代のクライアントに対し、「どのように援助すればよいのか」を家族システム論を土台に据えた理論によって、①課題を理解する「手掛かり」を与えている。その「手掛かり」の例として「羅生門的現実」、「円環的因果関係」、「レジリアンス」、「スピリチュアリティ」等が紹介されている。また、②実際の現場で使える「解決へのツール」として、「ジエノグラム」、「家族ライフサイクル」、「例外探し」、「対人関係スキルの心理教育」、「リフレクティング・プロセス」、「ニーバーの祈り」等を事例と共に紹介している。解決へのツールの中から「ジエノグラム」と「リフレクティング・プロセス」について紹介したい。

ジエノグラムは、客観的な家族情報（年齢・名前・同居家族等）だけを書き込むのではなく、多世代間の課題（例えばアルコール依存）やストレスの要点を書きこみ、それらストレスの重なり合いなどを考慮しつつ家族をシステムとしてとらえる。さらに社会資源（例えば教会の仲間たち）について書き加え、クライアントの課題や社会資源を可視化する。重層的に絡み合った諸課題が、可視化されたジエノグラムを客観的に見直す作業によって解かれていく。

第五章の「リフレクティング・プロセス」は、ぜひグループで読み、実際にロールプレイすることをお勧めする。社会資源となるメンバーがクライアントを責めずに、多面的な考えを語ることで、クライアントに劇的な変化をもたらす場面に何度か立会った。一対一のカウンセリングでは体験できない力強い体験を、ぜひ味わって頂きたい。

第六章はミドルエイジが直面する諸課題の内、現場で出会う頻度の大きい四項目（「職場のメンタルヘルス」、「夫婦関係の危機」、「高齢出産」、「子どものひきこもり」）を挙げている。

ここでも豊富な事例が提示されている。

「夫婦関係の危機」の中の「カウンセリングの倫理面」について紹介したい。クライアントの結婚観や価値観と向き合う夫婦カウンセリングでは、カウンセラー自身の結婚観や価値観が問われてくる。ジエンダー（性別役割）に関する価値観が、無意識のうちにクライアントに悪影響を及ぼしている可能性については、全てのカウンセラーが注意しなければならない。また、夫婦個別面接で得た情報を、合同面接で隠すべきか否か、といった「守秘義務」について、同僚や専門家の意見を仰ぐことが提示されている。カウンセラー一人で全てを抱えることの危険性が指摘されている。

本書は、ミドルエイジへのカウンセリングのみならず、全ての世代へのカウンセリングでも参照すべき叢書に満ちている。キリスト者としての霊的サポートについても多くのヒントが提示されている。豊富な事例提示の行間から著者達のカウンセリ

ング経験の豊富さとクライアントへの深い配慮がにじみ出ている。巻末に関係機関・相談機関リストも掲載されているので、「カウンセラー一人で全てを抱え込まなくて良い」とのメッセージも込められているように感じた。

援助者とミドルエイジには特に一読をお勧めする。

（えんどう・ゆうじ）日本基督教団高の原教会牧師
（A5判・二六八頁・定価一五七五円〔税込〕・キリスト新聞社）



今すぐアクセス!



<http://www.bunnsyo.or.jp>

●2013年1月号から前月号まで、ホームページで閲覧できます。
本のひろば ホームページ

「キリスト教文書センター」のホームページから書評誌『本のひろば』をクリックしてください!

一般財団法人
キリスト教文書センター
〒162-0814 東京都新宿区
新小川町9-1
TEL・FAX 03-3260-6520

■日本キリスト教団出版局

たいようも つきも

フランチェスコのうた

キヤサリン・パターソン文／バメラ・ドルトン 絵／藤本朝巳訳
フランチェスコの祈り「太陽の賛歌」がパターソンの言葉でよみがえり、
ドルトンの切り絵で鮮やかに表現される。神さまの恵みに感謝し、お互い
に愛し合い、平和に暮らすことの大切さを伝える。

B4変・32頁・1575円

ドイツ教会闘争の史的背景

雨宮栄一著

ドイツ教会闘争の歴史を、第一次大戦敗戦とドイツ革命による領邦教会崩
壊、ナチス台頭からバルメン宣言までを詳述。ナチスの躍進などを概観し、
現代日本に対しても警鐘を鳴らす。

四六判・360頁・2940円

2012年上智大学神学部夏期神学講習会講演集
女と男のドラマ——現代における愛の源泉

宮本久雄、武田なほみ編著

森本あんり、岩島忠彦らによる11の論考とシンポジウムの記録を収録。キ
リスト教的視点のみならず、仏教の世界、そして小説の世界が紡ぎ出す、
女と男の真実のドラマに迫る。

四六判・336頁・2940円

聖書学古典叢書《第2回配本》

石器時代からキリスト教的過程

唯一神教とその歴史的過程

W・F・オールブライト著／小野寺幸也訳、木田献一監修

原始時代からキリスト教誕生に至るオリエント文化・宗教の実態を、言語
学・考古学を通して解明。死海文書ほか戦後の考古学的発見の成果も踏ま
えた最終版から、本邦初訳。

A5判・450頁・6300円

現代聖書注解《第40回配本》

哀歌

F・W・ダブスIIオルソップ著／左近 豊訳

都と神殿が徹底的に破壊され、深い苦悩に突き落とされた人々の叫びから
湧き上がる五つの詩を文学的に分析し、神の御業、沈黙、不在の信仰的意

INFORMATION

近刊情報

味を探る。

A5判・274頁・5670円

■教文館

人格と人権——キリスト教弁証学としての人間学下

大木英夫著

近代人、とくに戦後の日本人はなぜ、人格として自立し、人権を帯びねば
ならないのか。日本国憲法の中で「最高法規」と明示された人権理念の源
泉を求め、神学的人間論の再構築を試みる。

A5判・約512頁・5565円

コーランの中のキリスト教

——ユダヤ・キリスト教徒の足跡を追って

J・グニルカ著／矢内義顕訳

コーランに描かれるキリスト教徒とはどのような人々であったのか？ コ
ーランに入り込んだ聖書資料はどこから来たのか？ ユダヤ教、キリスト
教、イスラームの歴史的な接点を探る画期的な試み。

四六判・224頁・2310円

■新教出版社

歴史観とキリスト教

黒川知文著

歴史には意味や目標があるのか。それとも偶然の出来事の因果連鎖に過ぎ
ないのか。歴史観にキリスト教が与えた多様な影響を、西洋思想を中心に、
詳しく検討。多数の図表を収録、初学者にも分かりやすく解説。

四六判・264頁・予価2500円

神学再考——歴史と社会の中から（仮題）

深井智朗著

これまでの神学思想史はややもすれば、神学を教理史として教会や神学内
部の自閉的な論理に閉じこめてきた。それに対して本書は神学を、隣接思
想や同時代との交渉を通して変貌する、ダイナミックな運動として捉える。
画期的な神学論。

四六変・200頁・予価1800円

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zeninranki_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区1-136 敷島センター17号F	022-223-2736	共用		fcqwks524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	平新町短箱22 千葉カシヤセンタービル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://www/seikokai-pub.jp/	nsk-bookshop@company.email.ne.jp	00140-8-50880
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.jcom.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kirisu@youstotenhanna@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231		biblehouse@bible.or.jp	
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.ne.jp/~yokohama.cs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00680-8-47
静岡聖文舎	420-0812	静岡市葵区古庄3-18-12	054-264-0264	054-264-4416		info@s-seibun.co.jp	0810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjordan@inbox.kyoto-intet.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://www11.ocn.ne.jp/~osakacs	ochtbok@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0016	広島市中央区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951			01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shrit.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一町11-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖縄キリスト教書店	901-2134	浦添市港川2-25-1	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283
エマオ・BOOKセンター	904-0004	沖縄市中央3-14-2	098-929-3776	共用	http://www.okinawacbs.com/	emacbs@yahoo.co.jp	

新教出版社

福音と世界

2013年5月号

特集 人生の「意味」を求めて——教育制度

子どもの危機・教育の今 二〇一三……………佐野通夫
現場をながしるにす

「教育改革」のゆくえ……………赤田圭亮

子どもとの環境としての大人の生き方……………岡田勝

「新しい教養」の行方……………西山雄二

「自傷・自殺」問題と「生きる意味」……………中島浩壽

「コヘレトの言葉」から……………上村静

北村裁判判決に寄せて……………北村慈郎、関田寛雄

【新連載】
自民党改憲草案を読む……………横田耕一

A5判・80頁・本体571円・〒68円
年間予約購読料〒共8,016円（消費税込）

バルト・セレクション5

教会と国家Ⅱ 天野有 編・訳



ハンデイに読めるバルトの文庫
版第3弾。反ナチ教会闘争時代の
重要論考10編を収録。収録内
容：「義認と法」「プラハのフ
ロマートカ教授への手紙」他。

◎文庫判・648頁・定価1,995円

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL: 03-3260-6148
FAX: 03-3260-6198

編集室から

世の中で「絶対」と呼べるものはひとつもない。あえて言うなら、人は必ず死ぬということぐらいか。先日、某航空会社の役員と話す機会があった。「安全には最大の努力をし、お客様に安心を提供したい」。しかしそれでも「安全に絶対はない」とおっしゃっていた。

一九六六年に静岡県で一家四人を殺害したとし、刑が確定した死刑囚のパウロ袴田巖さんが再審請求をしている。冤罪の可能性が極めて高いとされたまま、三月一〇日に獄中で七十七歳の誕生日を迎えた。

獄に閉じ込められて四十七年目。拘禁症を患い、実姉の面会さえも拒否する状態が続く。

二〇〇七年には、元裁判官が「一審当時袴田さんは無罪だと主張したが、2対1で死刑に決まった」と告白。さらにこのほど実施されていたDNA鑑定では、袴田さんに有利な結果が出

た。

袴田さんの獄中書簡『主よ、いつまでですか』（新教出版社、一九九二年）が出版されたとき、岡田武夫カトリック大司教（当時はカトリック浦和教区司教）が本誌に書評を寄せ、「この事件にはわからない点、疑わしい点が多く残されており、彼を有罪にする決めに欠けている。神ならぬ人間のすること、絶対には誤審がないとは言えない」と指摘している（『本のひろば』一九九二年一二月号）。

近年、足利事件、布川事件、東電OL殺人事件と、再審無罪を勝ち取るケースが相次いでいる。万が一、自分が犯人に仕立て上げられたら……と想像してみる。無関心は最も恐ろしいことであると思う。民主主義の法治国家でも、冤罪事件が起こる可能性はあり、裁判も間違いを犯すことがある。何事にも「絶対」と言えるものはない。（竹下）

悲しみに寄り添う 死別と悲哀の心理学

ケルステイン・ラマー著 / 浅見洋、吉田新訳

4月19日

悲しみとは何か? どのようにして悲しみを乗り越えて行くべきなのか? 第一線で活躍するドイツ人女性神学者が、教職者にも必要な基礎知識を懇切に解説したグリーフワーク入門書。

◆四六判・定価1890円

イエス・キリストの生涯の要約

パスカル著 / 森川甫訳 珠玉のイエス伝 4月22日

『パンセ』の草稿の横で発見された遺稿。パスカルが四福音書を深く読み抜き、354の断章から構成した傑作。祈りと黙想の伴侶として比類ない価値を持つ。

◆B6判・定価1890円



ことばのともしび

神をエネルギー源としているから、末盛さんは底抜けに明るい。

末盛千枝子 著

人生の様々な悲しみと試練、出会いと恵みを、静かな言葉で綴った珠玉のエッセイ集。

◆四六判・164頁・定価1050円



バルト・セレクシヨン5

教会と国家Ⅱ 反ナチ / 教会闘争時代 カール・バルト 著

天野有編訳

「福音と律法」「義認と法」「プラハのプロマートカ教授への手紙」など反ナチ教会闘争時代の重要論考10編を収録。今日なお必読の文献の新訳。

◆文庫判・648頁・定価1995円



最初期キリスト教思想の軌跡

青野太潮著 イエス・パウロ・その後

キリスト教思想成立の過程に肉薄し、その意味を考察した刺激的論考29編を収録。青野新約聖書学の集大成とも言うべき大著。

◆四六判・定価6300円

権力を志向する

韓国のキリスト教

内部からの対案 崔亨默 著 / 金忠訳

民主化闘争や民衆神学だけではない「その後の韓国のキリスト教」。富と力を志向する現実を鋭く批判し対案を提示。

◆新書判・定価1785円

生誕1000年記念出版!

好評発売中

渡辺禎雄聖書版画集

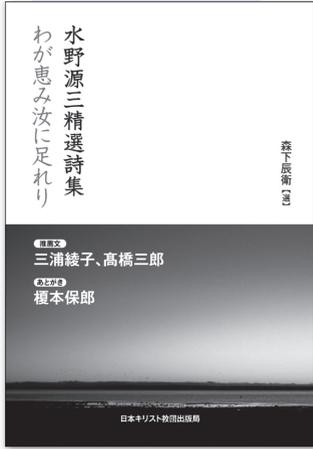
くすしきみわげ

国際的に高い評価を得ている渡辺画伯の代表作73点を取めた決定版作品集。

◆A4判・定価5250円

日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL03-3204-0422 FAX03-3204-0457
 e-mail eigyou@bp.uccj.or.jp ホームページ http://bp-uccj.jp (価格は税込)

没後29年を経ても愛され続ける
 「まばたき」で紡いだ
 398編を精選!!



水野源三精選詩集 わが恵み汝に足れり

森下辰衛 選

まばたきを通して多くの
 信仰詩を残した水野源三。
 日常の中で見つけた希望



を歌った作品は、今でも多くの人の心を打つ。
 その作品の中から398編を精選した水野源三
 詩集の決定版。 ◆A5判 上製・240頁・2,730円

好評 発売中 TOMOセレクト 私私私らしく生きる 水野源三詩集
 森本二太郎 写真 中村啓子 朗読 2,940円

良き力に守られて 一牧師として歩んだ道

村上伸

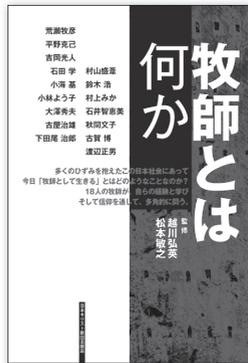
ボンヘッファー研究の第一人者が、神学を学ぶことと、神と隣人に仕えること、両者が響き合う生涯を瑞々しい文章で描く。

◆A6判並製・200頁・1,890円

牧師とは何か

越川弘英 / 松本敏之 監修

牧師は「働きを振り返る」ために、
 信徒は「牧師を知る」ために



◆A5判並製・386頁・4,830円

牧師の持つ多くの顔に光を当て、現代日本社会における「牧師の働き」を18名の牧師が多角的に描き出す。牧師の日常や、召命から隠退までの人生も経験的具体的に叙述。

